

## 5. 平成 28 年度から令和 2 年度までの結果概要

### 5.1 イタチ捕獲結果概要

平成 28 年度から令和 2 年度までのイタチ捕獲状況についてまとめた(表 5-1、表 5-2、図 5-1)。

平成 28 年度は宮古島、来間島、伊良部島、下地島の全域で主に筒わなを用いて捕獲を実施した。捕獲のほとんどは伊良部島及び下地島となり、計 13 個体が捕獲され CPUE は 0.08 となった。捕獲はすべて成獣オスであった。

平成 29 年度は前年度の結果から伊良部島と下地島のみで捕獲を実施した。わなは主に筒わなを使用し、カゴわなを用いた生け捕りについても平成 28 年度の 5 倍程度の努力量で実施した。捕獲は計 65 個体(成獣オス 63 個体、不明 2 個体)となり CPUE は 0.35 となった。伊良部島及び下地島の全域で捕獲され、特に伊良部島の森林面積の大きい牧山周辺での捕獲が多くなった。

平成 30 年度は捕殺式わなの Doc200(ニュージーランド製)を新規に投入し、Doc、筒わな、カゴわなの 3 種類のわなを主に使用し捕獲を実施した。捕獲は伊良部島及び下地島で実施し、カゴわなについては一部宮古島の大野山林にも設置した。宮古島での捕獲はなく、伊良部島及び下地島で計 84 個体(成獣オス 58 個体、成獣メス 7 個体、亜成獣 16 個体、不明 3 個体)が捕獲され CPUE は 0.71 となった。Doc は筒わなと比較して捕獲効率が格段に高かったことから、平成 31 年度からは Doc を主に使用し捕獲を実施した。

平成 31 年度は下地島及び伊良部島の一部隣接地域で捕獲を実施し、下地島南部の農地では高密度にわなを設置しメス個体を狙った集中捕獲も実施した。イタチは計 72 個体(成獣オス 43 個体、成獣メス 11 個体、亜成獣 2 個体、不明 16 個体)が捕獲され CPUE は 0.66 となった。

令和 2 年度は Doc 及びカゴわなを使用し主に下地島で捕獲を実施した。計 33,090TD をかけ計 199 個体(成獣オス 101 個体、成獣メス 10 個体、亜成獣 2 個体、不明 86 個体)のイタチが捕獲され、CPUE は 0.60 となった。令和 2 年度においては下地島全域に面的に Doc を設置することでこれまでで最も多くのイタチが捕獲され、84 個体捕獲された平成 30 年度の 2 倍以上の捕獲数となった。

平成 28 年度から令和 2 年度までの総捕獲数は 433 個体(成獣オス 278 個体、成獣メス 28 個体、亜成獣 20 個体、不明 107 個体)となった。

表 5-1 調査年度ごとのイタチ捕獲状況

調査年度	成獣オス	成獣メス	亜成獣	不明	合計捕獲数	TD	CPUE
H28年度	13	0	0	0	13	15,955	0.08
H29年度	63	0	0	2	65	18,804	0.35
H30年度	58	7	16	3	84	11,778	0.71
H31年度	43	11	2	16	72	10,894	0.66
R2年度	101	10	2	86	199	33,090	0.60
合計	278	28	20	107	433	90,521	0.48

表 5-2 平成 28 年度～令和 2 年度までのわな種ごとの捕獲結果

わな種	年度	TD	捕獲数	CPUE	備考
かごわな	H28	494	9	1.82	
	H29	2,342	59	2.34	
	H30	1,410	17	1.21	
	H31	1,674	16	0.96	下地集中捕獲
	R2	617	7	1.14	下地島空港西側
計		6,537	108	1.65	
Doc200	H28	-	-	-	
	H29	-	-	-	
	H30	5,535	50	0.90	伊良部、下地、糞等の情報をもとに設置
	H31	6,633	53	0.80	下地集中捕獲、下地広域捕獲
	R2	32,473	192	0.59	広域捕獲
計		44,641	295	0.66	
筒わな	H28	15,461	4	0.03	宮古全域
	H29	16,462	6	0.04	宮古、伊良部、下地
	H30	4,833	16	0.33	伊良部、下地、糞等の情報をもとに設置
	H31	720	2	0.28	下地広域捕獲
	計		37,476	28	0.07
A24	H28	-	-	-	
	H29	-	-	-	
	H30	-	1	-	18台設置、2回点検
	H31	-	0	-	10台設置、2回点検
	計		-	1	-
シャーマン トラップ	H28	-	-	-	
	H29	-	-	-	
	H30	-	-	-	
	H31	1,867	1	0.05	下地集中捕獲
	計		1,867	1	0.05
総計		90,521	433	0.48	

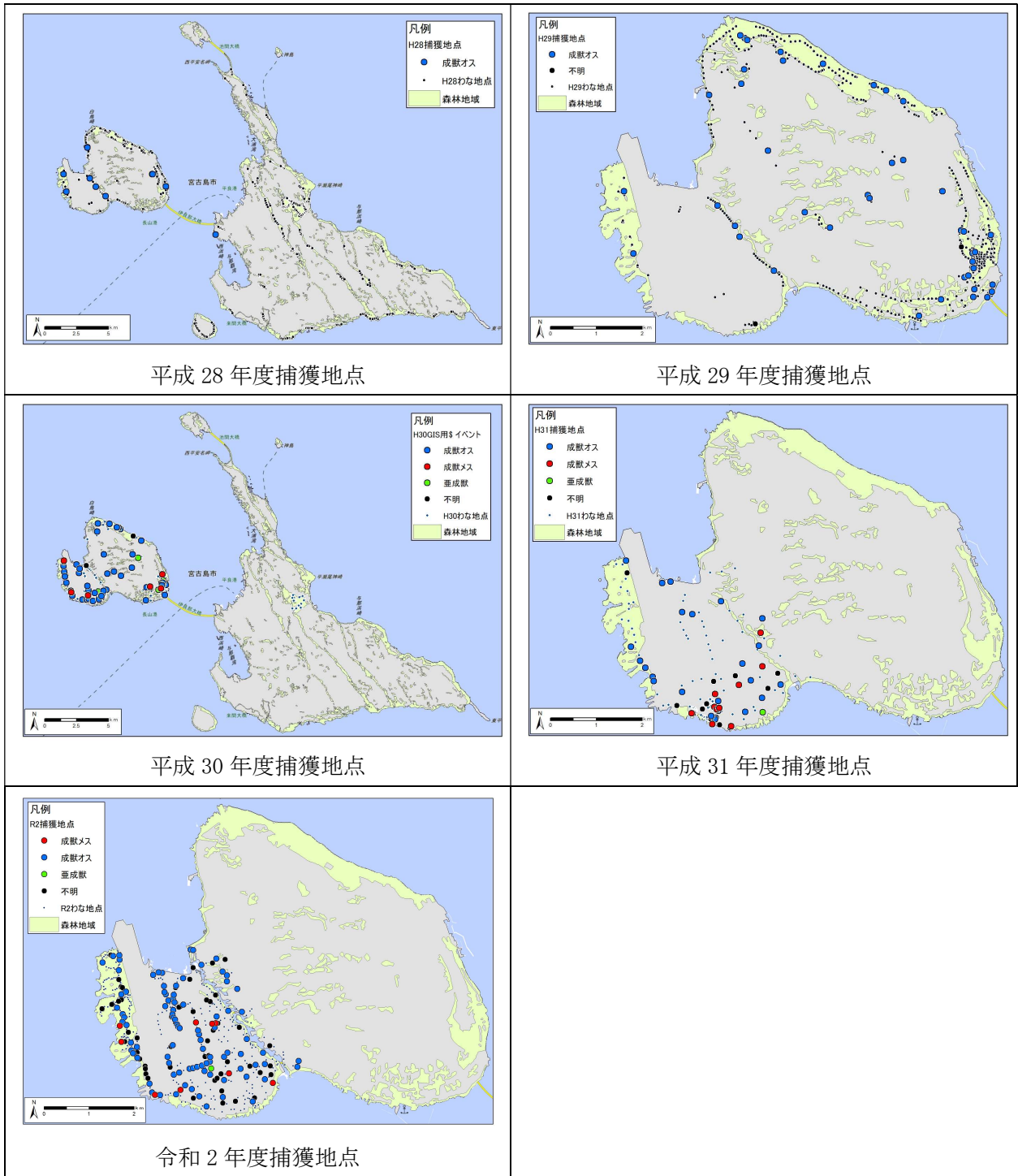


図 5-1 平成 28 年度から令和 2 年度までのイタチ捕獲地点

## 5.2 メス個体の捕獲状況

### (1) 検証方法

平成 28 年度から令和 2 年度までの筒わな、カゴわな、Doc200 でのメス個体捕獲数を比較した。

### (2) 検証結果

これまでの成獣メスの捕獲状況を示した（表 5-3、図 5-2）。

平成 28 年度及び平成 29 年度は捕獲がなく、平成 30 年度よりメスが捕獲されはじめた。平成 30 年度は 7 個体捕獲され CPUE が 0.059、平成 31 年度は 11 個体捕獲され CPUE が 0.122 となり CPUE の値が約 2 倍となった。これは Doc の入り口を狭め、オスよりもメスが入りやすいように入り口の加工を行ったことや、カゴわなをトリカルネットで覆い網目からの脱走を防止したことによるものと考えられる。令和 2 年度は Doc で 9 個体（CPUE0.028）、カゴわなで 1 個体（CPUE0.162）の計 10 個体が捕獲され CPUE は 0.030 となっている。

カゴわなについては平成 30 年度までは捕獲が 0 だったのに対し、平成 31 年度は 1,674TD で 4 個体、令和 2 年度が 617TD で 1 個体捕獲されており、作業員がカゴわなの格子から小型の個体（メス個体あるいは亜成獣）が脱走するところを実際に目撃していることから、これまではカゴわなの格子から脱走していたため、メス個体の捕獲がなかったと推測される。

捕獲地点について、下地島全域での捕獲を行った令和 2 年度は南側の農地、空港東側及び西側の樹林と広範囲で捕獲されている。平成 31 年度については下地島南西部の農地においてメスを狙った集中捕獲を実施したためこのエリアで多く捕獲されている。平成 30 年度については下地島では空港西側で 3 個体、南部の農地で 1 個体の捕獲となり、伊良部島の牧山周辺で 3 個体の捕獲となった。

表 5-3 メス捕獲状況

年度	わな種	捕獲数	TD	CPUE
H28	カゴわな	0	494	0
	筒わな	0	15,461	0
小計		0	15,955	0
H29	カゴわな	0	2,342	0
	筒わな	0	16,462	0
小計		0	18,804	0
H30	Doc200	4	5,535	0.072
	カゴわな	0	1,410	0
	筒わな	3	4,833	0.062
小計		7	11,778	0.059
H31	Doc200	7	6,633	0.106
	カゴわな	4	1,674	0.239
	筒わな	0	720	0
小計		11	9,027	0.122
R2	Doc200	9	32,473	0.028
	カゴわな	1	617	0.162
小計		10	33,090	0.030
総計		28	88,654	0.032

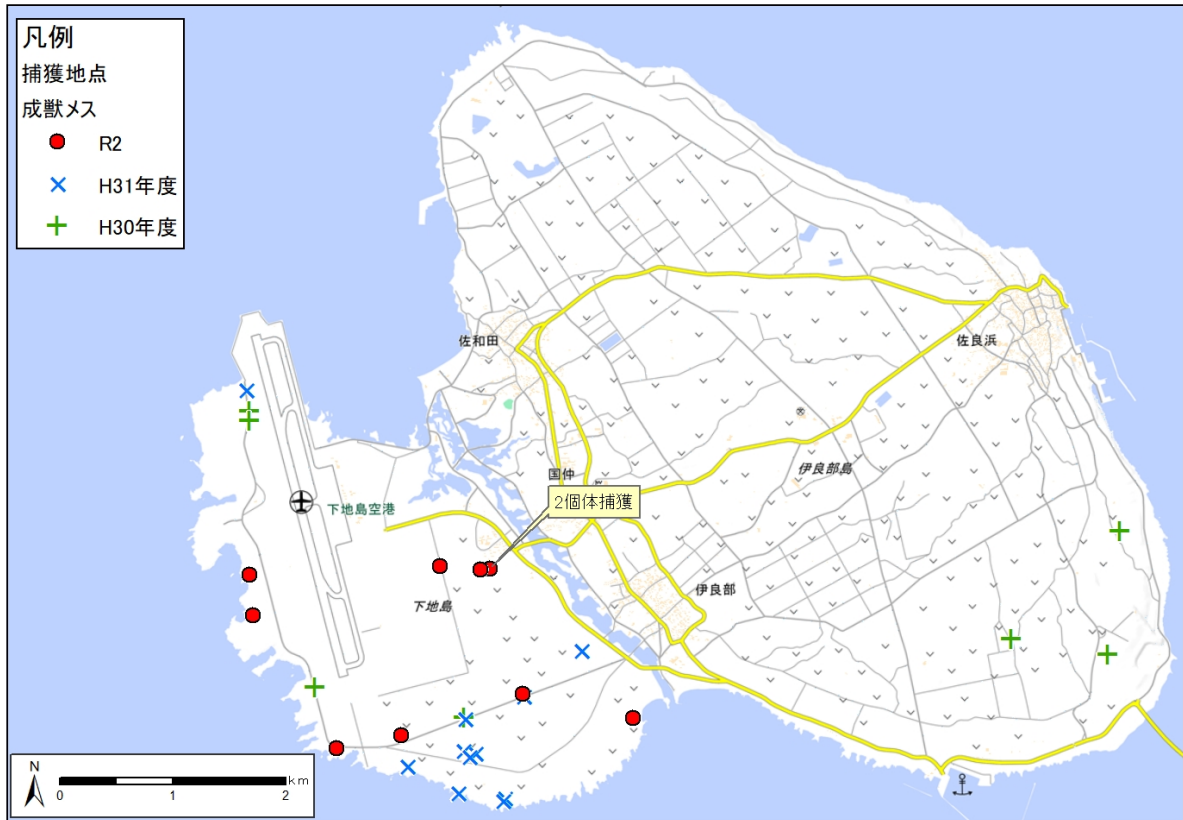


図 5-2 メス個体捕獲地点